

平成30年度 第1回嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会 会議録

- 1 審議会等の名称 平成30年度 第1回 嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会
- 2 開催日時 平成30年10月23日 火曜日 午後7時00分～
- 3 開催場所 嘉麻市役所 嘉穂庁舎2階 第1会議室
- 4 公開又は非公開の別 公開
- 5 非公開の理由（会議を非公開とした場合のみ）
- 6 出席者
 - (1) 協議会委員
会 長 木本寛昭
副会長 永富靖人
委 員 松岡広樹委員、高松美紀委員、本松政一郎委員、園田晃委員、
福永貴義委員、藤井隆昭委員、伊東新治委員、青木康弘委員、
野上真吾委員（欠席）、平田賢一郎委員（欠席）、
 - (2) 行政機関
学校教育課長 柴田きよみ、 学校教育課参事 大森雅明
学校教育課長補佐 北富真治、 学校教育課指導係長 宮脇教子
学校教育課指導係 青野秀明
- 7 傍聴人数（会議を公開した場合のみ） 0人
- 8 議題及び協議の内容
 - 【議題】
 - (1) 学力向上事業の取組み等について
 - ① 学力向上について
 - ② 嘉麻市土曜未来塾について
 - (2) その他
 - 【協議の内容】
 - (1) 学力向上事業の取組み等について
 - ① 学力向上について
事務局から市内児童生徒の様子を学力と不登校児童生徒数のデータをもとに説

明し協議した。

(主な説明内容)

- 平成23年度に約120名だった不登校児童生徒が昨年度は46名に減少した。
- 小学校のNRTは全国平均を超え、中学校の「フクト」は、県平均にあと僅かとなっている。
- 本年度の全国学力・学習状況調査は、小学校でB問題が伸びている反面、A問題が下がった。家庭学習の時間は増え、計画的に学習する児童も増えている。
- 中学校ではどの領域も伸びている。家庭学習の状況も改善され、計画的に学習する生徒も増えている。また、学校の決まりを守っている生徒も大きく全国を上回っている。
- 地域活動に参加する児童生徒が全国を下回っている。
- 放課後学習のICT活用を試行したり、全校でコーディネーショントレーニングに取り組んだりしている。

(主な協議)

- 放課後のICT活用について具体的にどのように行っているのか。
 - インターネット環境があれば、生徒が自分で学べるもの。解説付きで問題の解き方が学習できる。(事務局)
- 地域行事に子どもたちが参加しない現状が気になる。社会教育の中で保護者の参加機会がもてればどうかと思う。
- PTAも保護者に出てきてもらう仕組みを作る必要があると考えている。(委員)
- 市のイベントを開催するときは早目の連絡が効果的。
 - 調査の質問の捉え方にもよりますが、参加しているけど主体ではないので参加していないと回答する生徒もいる。
 - PTAも学校も教育委員会も参加しやすい環境づくりをしていく必要がある。
 - 学校の教育力と家庭の教育力と地域の教育力が合わせられてもっと子どもたちが伸びていく。

② 嘉麻市土曜未来塾について

- 土曜未来塾に参加している子どもたちの学力は伸びているのか。
 - 学校の取組みで伸びているのか家庭学習で伸びているのか土曜未来塾で伸びているのか仕分けて判断するのは難しい。しかし、テスト等の分析を進めていくことにしている。(事務局)
- 土曜未来塾でターゲットとしている子どもたちは参加しているのか。
 - 対象と考えている児童生徒の8～10%程度となっている。(事務局)
- 学童などで土曜未来塾と連携して学習できないかなと思うが。
 - こども育成課にも協力していただき連携していきたい。(事務局)

○コーディネーショントレーニングを中学校に取り入れることについてどうなっているか。

→中学校でも実施されている。

○体力を上げることによって芯ができていくし、非常に大事なことであると思う。

→小学校ではカリキュラムに位置付けて、中学校でも朝の活動に位置付けた学校もある。(事務局)

(2) その他

○教育事務所では、各学校で「スタンダード」をつくることを推奨している。嘉麻市の取組みを県教育委員会、筑豊教育事務所としても精一杯支援していきたいと思う。(教育事務所)

9 配付資料

(1) レジюме

(2) 資料1-1 小学校標準学力検査 NRT 結果、中学校標準学力分析フクト結果

(3) 資料1-2 不登校児童生徒の推移

(4) 資料2-1、2-2 平成30年度全国学力・学習状況調査結果

(5) 資料3-1、3-2 基本的な生活習慣及び生活実態に関する調査結果

(6) 資料4-1～4-4 土曜未来塾関連資料